

## 徳川美術館展 尾張徳川家の至宝

サントリー美術館（六本木） 24.07.03～09.01

尾張徳川家は、「徳川家康」（1542～1616）を初代とする御三家筆頭の大名家で、天下分け目の大戦・関が原合戦から2か月後に「義直」は誕生し、尾張徳川家代々の居城となる「名古屋城」を完成させ、尾張国一国・美濃国・三河国の一部・信濃国の木曾山など61万9500石にも及ぶ領国を有した。

### <展示構成>

- 第1章 尚武 もののふの備え 具足・刀剣・刀装具・陣中道具の紹介。  
第2章 清雅 一茶・能・香 貴重な茶道具・能装束・能面・香道具。  
第3章 求美 武家女性の華やかな子袖・琴・琵琶などの楽器類・遊戯具。  
特別公開 国宝 「源氏物語絵巻」

本展では、特に4場面の展示替えをしながら公開がされている。

《柏木(三)》 一巻 12世紀(平安時代) 展示期間 07.03～07.15

54帖巻名の一つ「第36帖」で、柏木の未亡人落葉の宮の母・一条御息所が詠む和歌「柏木の葉守の神は増さずとも人ならすべき宿の小梢か」に因む。



思い切って左半分には重心を置き、右半分は対の簀子に組高覧、長押しに下がる暖簾と几帳の間から、打出衣（うちいでのきぬ）のみを見せている。女三宮は姿を見せていないようだが、画面左端に描かれた几帳の裾が、その存在を推量させている。

廂の間には女房二人が正装で控えて、源氏は祝善の前に、白襲（しろがきね）の冠直衣裳で薫を抱き、顔を傾けてしみじみとその顔に見入っては悲痛な感慨にひたっている。

《橋 姫》 一巻 12世紀(平安時代) 展示期間 07.31～08.15



宇治の通いも3年になる晩秋、宮の留守に訪れた薫は、有明の月の下で、琴と琵琶と合奏する美しい姫君姉妹を垣間で見ると、

老女房から自分の出生にまつわる秘密を聞かされ、真実を知った薫の心は重く、やりどころない苦しみを秘めていた。